

【平成18年度の業務実績】

瑞浪超深地層研究所では、坑道壁面の調査や地下水の動きを把握するため地下水の動きに伴い地中に生じる電気を利用した調査、岩盤に加わる力の測定、研究坑道内における工事等に伴う振動を利用した弾性波探査などの調査研究をしました。また、第1段階（「地表からの調査予測研究段階」）の成果を報告書として取りまとめると共に、第1段階で構築してきた地質環境を模式的に表したもの（「モデル」といいます）と坑道掘削時に得られた情報との比較検討をしました。

研究坑道の建設については、主立坑の掘削は深度200.2m、換気立坑は深度193.7mまで掘削を進め、主立坑では深度200mの水平坑道（「予備ステージ」といいます）の掘削に着手しました。さらに、研究坑道の掘削工事に伴って発生する湧水処理する排水処理設備の処理能力を、日量1,115m³/日（通常時平均970m³/日）から1,704m³（通常時平均1,514m³/日）に増強しました。



坑道壁面の調査



深度200mの予備ステージ入口

【平成19年度の業務計画】

瑞浪超深地層研究所では、深度200mにおいて主立坑と換気立坑をつなぐ予備ステージとボーリング調査を行うための水平の坑道（「ボーリング横坑」といいます）を掘削します。また、地質構造を把握するための坑道壁面の調査を実施するとともに、掘削による地下の状態の変化を把握するために、ボーリング横坑からボーリング調査を行い、地下水の水圧・水質測定や立坑掘削に伴う岩盤のひずみ測定等を実施するための計器類を設置します。その後、深度200m以深の立坑の掘削作業を進める予定です。

研究坑道の掘削に際しては、地下水の湧水量を抑制するために、必要に応じて岩盤の隙間にセメント等の注入を行いながら、掘削工事を進めていく予定です。なお、研究坑道の掘削計画は、地質環境の状況等により変更することがあります。

広域地下水流動研究では、広い範囲における地下深部までの地下水の流れや水質などを明らかにするために必要な調査・解析技術の研究開発と、調査・解析結果の妥当性を評価するための技術の研究開発を行います。なお、本研究では、平成16年度をもって、物理探査やボーリング調査などの現地調査を終了しています。



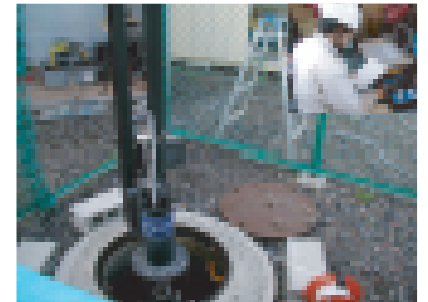
地下水の水位観測

【平成18年度の業務実績】

既存のボーリング孔において、地下水の圧力などの長期観測を継続しました。

【平成19年度の業務計画】

平成18年度に引き続き、既存のボーリング孔において地下水の圧力などの長期観測を継続します。



地下水の採水・化学分析